された結果、独身生活者及びFamily Center の二種に分け、遅くとも来る六月中には、全部のインターニーを夫々移動せしめ、本キャンプを引き揚げさせる方針だと云ふ。従つて今回吾らの落ち着く先であるSata Feのキャンプは独身者のみを収容するものと見做される。尚ほ一説によれば一家族との同居を拒否したものも亦独身者と見なし今後移動されるのではないかと謂はれる。

曾てサンタフヰーに長く居住したといふ某君の直話によると、同地は高原状の高地で、冬は相当寒いが、いかにも冬らしい気候で、夏はまた真に夏らしいとの感あるに過ぎず。当地の様な酷暑はなく、最も順調な季節で健康上適してゐるといふ。而も空気はドライだと云ふから、僕に取つては歓迎すべき土地だと思はれる。

三月廿六日（木）

荷物を検閲の上、夫々送り出した。雨中にも拘らず、丹羽及び高橋の両君と本宮君とが居て包装から運搬やらに全部引き受けて呉れた。諸君の好意真に感銘の至りである。

移動を繞り例のデマは猛烈な勢で飛び廻はり頗る愉快なものがある。インターニーに附きまはる蜚語流説は、恰も日本食における米の如く、洋食のブレッドの様なもので、無くてはならぬもの如く、俺も

金は少くも無くては物淋しい様な気がするであらう。
　大西昌子嬢より来信、先達木嶋夫人への通信により僕が退院した事が分ったらしい、其の文面によると横村に会ふ毎に僕の消息有無を尋かれるが、消息無しと返答する外ない、次には若し健康が許すならば好い通信を頼むと述べてゐる。何れSanta Feへ落ち着いた上、各方面へ便りをする豫定である。

三月廿七日(土)
　午后六時半から移動者の為め、K-1有志主催の送別会が食堂で開かれ出席した、竹田氏の司会で、永松大隊長の別辞、Centerりを代表し布哇の岡野氏、他出身は僕が代って夫々答辞を述べ次で余興に移り駒井氏が面白可笑しくこれを司った。出席者約百五十名、閉会后午の盛箭席の上、永松氏から本日の大隊長会議の報告があった、其れに依ると、最近差入品中のシガレットの中に手紙が密に封じられてゐたが検閲官によって発見された、これは差出人及受取人共に五年の体刑に五千弗の罰料であって告発を余儀なくされてゐる。又面会人が私に床の下に手紙を差込み渡さうとして監視兵に発見された、其の他、移動者の荷物検閲に当り、食堂から盗み取ったスプーン及びナイフが発見された、斯くの如き